

【提案文書】

学力向上委員会 第1回会議資料

学力向上委員会の取組について(案)

平成27年4月2日(木)

1. 活動目的

- (1) 生徒の学習状況の分析をもとに校内外における学力向上に向けた手立ての立案・実践を推進する。
- (2) TT、放課後学習、長期休業中の学習会の立案、実践を推進する。

2. 委員構成 委員長：柴田 委員：末永、広瀬、志賀、今崎、教頭

3. 今年度の具体的な活動内容

(1) 家庭学習の手引き作成(4月)

- ① 今年度は全学年、次年度以降は新1年生に向けた冊子を作成。
- ② 五教科の勉強の仕方の例を各教科担任に協力して頂き、紹介文書を作成してもらう。
- ③ 各学年で配布して頂き、学活や道徳、集会などにおける学習指導で活用して頂く。

(2) 放課後学習の実施について

- ① 教科担任が、作業の進捗、宿題の未提出などに応じて実施するもの
- ② 教科担任が、必要に応じて補充的な内容の学習会を開くもの
- ③ 学力向上委員会で企画する学習会(予定、担当：柴田)
 - 1年生：4月21日(火)～23日 16:00～17:00頃
 - ・内容は「ノートの取り方・使い方の紹介」
 - ・参加者を募り、1階空き教室で行う。
 - ・3日間とも同じ内容なので、参加希望の日を参加者が選ぶ。
 - 2年生：5月18日(月)・20日(水)・21日(木) 16:00～17:00頃
 - ・内容は「計画的なテスト勉強の仕方の紹介」
 - ・参加者を募り、1階空き教室で行う。
 - ・3日間とも同じ内容なので、参加希望の日を参加者が選ぶ。
 - 3年生：7月21日(火)～23日(木)
 - ・内容は「これからの計画的な受験勉強の仕方の紹介」
 - ・参加者を募り、1階空き教室で行う。
 - ・3日間とも同じ内容なので、参加希望の日を参加者が選ぶ。

(3) 長期休業中の学習会(サマースクール・ウインタースクール)

- ① 学力向上委員会が企画する。
- ② 目的
 - ・1, 2年生：前の学期の復習と次の学期の予習を計画的に行うための機会とする。
 - ・3年生：高校受験に向けた学習を計画的に行うための機会とする。
- ③ 長期休業中の学習会は、原則として最初の週の平日2日と、最後の週の平日2日の計4日間とする。ただし、学年や教科担当の要望があれば、その学年で増やすことができる。2015年度については・・・
 - サマースクール：7月27日(月)・28日(火)、8月17日(月)・18日(火)
 - ウインタースクール：12月25日(金)・28日(月)、1月15日(金)・18日(月)
- ④ 学年ごとではなく、全校生徒から希望者を募り、集約して、1階教室を使って行う形とする。
- ⑤ 1回につき9:30～11:00(90分)で行う。
- ⑥ 担当で学力向上委員会または各学年で定数を割り振る。
※希望者の人数が20名につき1名を定数と考えている。
- ⑦ 内容は、生徒による自学自習を基本とする。ただし、教科担任等の希望があれば、別コースを設けることができる。

(4) その他

- ① 年度途中にて、さまざまな要望などにより、全校に関わる新たな企画を行う際には、職員会議で提案して共通理解を図ってから実施する。
- ② 年度途中にて、各学年の要望などにより、学年内の学習指導に関わる企画を行う際には、当該学年と連携して協力して実施する。

「放課後学習」「長期休業中の学習会」の状況

平成27年4月2日(木)
学力向上委員会

1. 放課後学習とは

- ① 教科担任が、作業の進捗、宿題の未提出などに応じて実施されたケース
- ② 教科担任が、必要に応じて補充的な内容の学習会を開くケース

過去に行われた放課後学習の仕組み(H24)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 平日放課後の学習会は、週2回程度行う。 ● 1回につき、50分×2(放課後15:50~16:40)の実施を基本形とする。 ● 基本的に実施内容は、学年で学習支援員が中心となって企画する。 	
成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> □ 理解が遅れてしまっている生徒や、つまずきのある生徒は基本的な文法事項をくり返し復習し、学習する機会になったと思う。 □ 技術や体育(ダンス)の補習を行い、習得に成果を上げることができた。 □ 部活動で学習会をしたり、課題点検をするのはとてもいいことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 希望者が固定化している。 ■ 回数については、何回実施したらいいかを念頭におかなければならないが、係から提示してもらえたらと思う。 ■ やればいいのはわかっているが、「計画的に」「必ず」というものなのかどうか・・・。 ■ 「臨機応変が大切なので、細かい年間計画とかはいらぬ。生徒の実態から実施していくもの。」という方針が必要か？大枠などとともに。 ■ 翌週の放課後学習の授業者を確保するのが大変ではないか。 ■ 担当の先生がどの程度関わっているのかが学年によって曖昧でした。教科でやりたいことがあると、教科の先生が1人で指導に当たることが多く、「担当者主催で・・・」という感じはまったくしませんでした。 ■ 希望制なので、本当に必要な生徒は来ていないのだと思います。自分で学習できない生徒が学べればよいのですが。 ■ 生徒が放課後学習に参加することで、満足してしまうことはよくない。家庭学習を充実させるための一方法として常に家庭学習を意識させることが必要だと思えます。 ■ 何か課題を出してやらせる形や、自習といったものだけではなく、家庭学習の習慣化の入り口として、勉強の仕方を教える内容を入れていくのもありかと思いました。 ■ 教科や部活動で未提出の課題に取り組みせる場面があったので、放課後学習としてもいいのではないかと。どの生徒でもできる課題を各教科で工夫して出しているのだから、それをやり遂げさせる場として活用してはどうか。 ■ 見通しが苦しいときがありました。長期休業中、放課後ともに「ない」よりは「実施」した方がよいのはわかりますが、「何のために」「何を目的に」、もっと話し合える場面がないとだめだと思います。本当に子どものためになっているのでしょうか？ ■ 加配が実現しない場合、回数の最低限度などなくなり、必要に配慮して可能な範囲で実施を考えてみては(完全になくすのではなく)

2. 長期休業中の学習会とは

各学年団が必要に応じて実施していたサマースクール、ウィンタースクールのこと

	2014年度の実施状況		
	1年生	2年生	3年生
サマースクール	(1) 7月28日・8月11日の2日間実施 (2) 9:30~11:00(90分) (3) 参加は希望者のみ (4) 自習形式の学習会(夏休みの宿題、ワーク・問題集、夏休み用教材「サマークラス」「みんなのサマー」を活用)	(1) 7月28日・29日・30日・31日・8月1日の5日間実施 (2) 9:30~11:00(90分) (3) 参加は希望者のみ (4) 自習形式の学習会(冬休みの宿題、ワーク・問題集などを活用して)	(1) 7月28日・29日・30日・8月18日・19日の5日間実施 (2) 9:30~11:00(90分) (3) 参加は希望者のみ (4) 自習形式の学習会(夏休みの宿題、ワーク・問題集、夏休み用教材「サマークラス」を活用)
ウィンタースクール	(1) 12月26日・1月13日・14日・19日の4日間実施 (2) 9:30~11:00(90分) (3) 参加は希望者のみ (4) 自習形式の学習会(冬休みの宿題、ワーク・問題集、夏休み用教材「サマークラス」「みんなのサマー」を活用) (5) 13日のみ、社会科の勉強の仕方教室を別コースで実施	(1) 12月26日・1月19日の2日間実施 (2) 9:30~11:00(90分) (3) 参加は希望者のみ (4) 自習形式の学習会(冬休みの宿題、ワーク・問題集などを活用して)	未実施
ねらい	(1) 前の学期の復習をして、学習習慣と基礎・基本を身につけよう。 (2) 次の学期に向けて、計画的に学習しよう。		

神居中学校の課題について

平成27年4月2日(木)

学力向上委員会

1. 平成26年度教職員アンケート集計より抜粋

生徒は、家庭学習に計画的に取り組もうとしている。	A	B	C	D	E	平均
	5.0	15.0	75.0	0.0	5.0	3.2

※A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：全くあてはまらない E：わからない

2. 平成26年度生徒たちへの生活質問（4月実施）より抜粋

	生活質問項目一覧	回 答	全校平均 (%)	合計 (%)
1	学校の授業以外、1日あたり 何時間勉強をしますか。 (塾や家庭教師も含む)	30分以上、1時間より少ない	19	38
		30分より少ない	13	
		全くしない	6	
2	学校が休みの日に、1日あたり 何時間勉強をしますか。 (塾や家庭教師も含む)	1時間以上、2時間より少ない	30	60
		1時間より少ない	21	
		全くしない	9	
3	学習塾(家庭教師も含む)で 勉強していますか。	通っていない	56	56
4	家では、自分で計画を立てて 勉強している。	どちらかといえばしている	37	80
		あまりしていない	29	
		全くしていない	14	
5	家では、 学校の宿題をしている。	どちらかといえばしている	24	32
		あまりしていない	7	
		全くしていない	1	
6	家では、 学校の授業の予習をしている。	どちらかといえばしている	19	79
		あまりしていない	36	
		全くしていない	24	
7	家では、 学校の授業の復習をしている。	どちらかといえばしている	33	69
		あまりしていない	26	
		全くしていない	10	

3. 考察

教職員の80%が生徒たちの家庭学習の取り組みが不十分だと感じている。また、4月の生活質問の結果を見ると、家庭学習の「時間は不十分」、「計画性はあまりなく、宿題で終わるのが多い」、「授業の予習・復習が不十分」なのではないかという傾向が見える。

【家庭学習の手引きより】

1. 生きることは学ぶこと！

勉強の基本的な意義をいくつか挙げる。

- 知識を得ること
- 解決方法を学ぶこと
- 講べること
- 体験すること
- 疑問をもつこと
- 粘り強く取り組むこと・・・など

どれも人生を
生きていく上で
必要なこと
ばかり！

人間は、長い人生の中で、さまざまな経験や課題に遭遇します。その時に、今まで経験したことや学習したことをもとに判断し、解決していくこととなります。単純に解決できることもありますが、幅広い内容や方法を組み合わせていくと解決できないことも多くあります。

人生は同じ経験ばかりではありません。そのため、いろいろな経験や方法を身につけておかなければ、後で困ることがあるわけです。一見、無駄に思えるようなことでも、大切なことばかりです。

中学校の勉強が9割勉強の理由は、いろいろな事柄を学習しやすいように分類してあるからです。どの教科であらうと、これから大になって勉強していくために、皆さんは粘り強く取り組んで体験して学び、さまざまな経験や課題を解決していける力を身につけてほしいと思います。

勉強は人生のトレーニングをしているようなものです。例えば、野球部の人たちが、ランニング、柔軟体操、筋力トレーニング、キャッチボール、トスバッティング・・・、いろいろな練習をして、試合に臨みます。

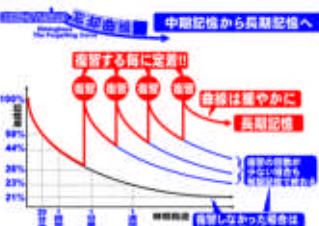
試合（テスト）では、練習（勉強）してきたものを生かしてプレーしようと思えますよね。でも、なかなかうまくいかない。

そこでまた、練習（勉強）をして次の試合（テスト）に臨みます。人生（中学校生活）もまさに、この繰り返しなのではないでしょうか？

2. なかなか結果が出ない！

人間は、経験したことを忘れる動物です。一度、授業で学習しただけではなかなか身につかないことは、科学的に証明されています。

ドイツの心理学者、エビングハウスによると、一度学習したことは、**1時間後は56%忘れ、1日経つと74%忘れてしまう**のです。だから「**復習**」が重要です。復習を繰り返して覚えなおすことによって、記憶が定着し、忘れにくくなります。



そこで重要なのは「**復習のタイミング**」です。1時間の間に5、6回と繰り返しても、実はあまり記憶に残らないとされています。最も効果的なタイミングは、記憶がやや弱くなり始める頃です。そこで覚え直すと、記憶が2～3日持続できるようになり、再度覚え直すと、記憶は2～3週間持続。また再度覚え直すと、2～3ヶ月・・・というように、忘れるまでの時間が長くなっていきます。

では、これからの中学校生活の中で、どのようなタイミングで「復習」をしていけばよいのか？以下に例を示していきます。

復習の前提条件

授業でしっかり理解する（理解していないものは思い出せない）

※まずは授業をしっかり受けて、理解しなければならぬ。理解できなかったものは、そのままにせず教員担任の先生や友達に尋ねてみるなどしてみよう。

学校生活における復習のタイミング

- 1 回目の復習：毎日の家庭学習
- 2 回目の復習：土日に今週どんなことを学習したかを振り返る
- 3 回目の復習：単元テストや定期テストへ向けた学習
- 4 回目の復習：長期休業中の学習
- 5 回目の復習：学力テストに向けた学習
- 6 回目の復習：受験に向けての復習

※上はあくまでも例であって、記憶の定着には個人差があります。自分に合った間隔、回数で復習を繰り返していきましょう。

例えば、2回目の復習を1週間後にしたときに、ほとんど覚えていないようであれば、次の2回目の復習を2週間後にするなど。

注意点

ほとんど忘れてしまったことは、繰り返しの効果が表れない！

学習した内容を復習しないで、1ヶ月もほったらかしにしておくと、忘れた部分は再生せず、また1から覚え直さなければならなくなってしまいます。覚えるためには、負担に感じる勉強をより多くの時間をかけてやらなければならないようになるのです。

毎日の復習をせずに「テスト前だけ勉強すればいいや」という人 → **テストに向けての勉強時間がたくさん必要になります。**

一夜漬けを中心に勉強してテストに臨む人 → **何とかテストは無難に過ごせても受験勉強は一朝やりの直しかもしれません。**

3. 家庭学習の時間はどのくらい？

家庭学習の時間は、学習内容や理解度、集中力によっても違いますが、時間の目安は一般的に示されています。以下は、テスト準備時間などではなく、あくまでも**平常時の目安の時間**です。

1日で考えた場合

中学1年生	1時間30分程度
中学2年生	1時間30分～2時間程度
中学3年生	2時間～3時間程度 + α (この部分は部活動を引き算してから)

皆さんの性格や生活スタイル、さまざまな事情があり、毎日決まった時間、勉強できない人もいます。その場合、週単位で学習時間を設定するのも1つの方法です。何かの都合で、家庭学習ができない日があっても、その分を別日に回復することは可能です。

1 週間で考えた場合

中学1年生	10時間
中学2年生	10時間～15時間
中学3年生	15時間～25時間

4. 毎日の家庭学習

(1) 勉強する内容

- ① その日に勉強する内容を書き出す。
その日の学習を振り返り、復習すべきことを書き出す。
- ② 学習が終わったものから消していく。
学習が進んでいく様子が目に見えて分かり、達成感がある。
- ③ まず宿題から。
宿題を出す目的は「学習内容を定着させるため」。評価もしてもらえらんだから最優先！
- ④ 教科の組み合わせを工夫する。
「数学と理科」「国語と英語」など、理系どうし、文系どうしの学習の連続や組み合わせは避ける
- ⑤ 不得意教科を長時間学習しない。
不得意教科は長時間行なうよりも、短時間で学習回数を増やした方が効果的。

(2) 家庭学習ノート

家庭学習において、「書く」ことはとても重要な作業です。これは2つの理由があります。

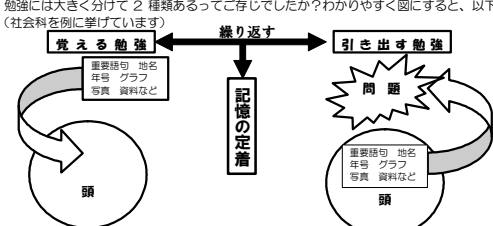
- ① 読むよりは、書くことが記憶に残る確率が高くなるから。
- ② テストは基本、書くことによって解答するから。

上の理由から、家庭学習は、書くことを中心に学習していくこととなります。そこで、せっかく書いたものを効率よく後から使うためにも、家庭学習ノートとしてまとめておくとよいと思います。

各教科1冊ずつあると・・・後から勉強するときに便利です。
それぞれの教科の学習量がわかります。

(3) 学習の種類

実は、勉強には大きく分けて2種類あるってご存じでしたか？わかりやすく図を見ると、以下のようになります。（社会科を例に挙げています）



- 教科書や資料集を見る・読む。
- ノートを見る・ノートに要点をまとめる。
- 地図帳で地名の場所を確認する。
- 年表を語呂合わせで覚える。 など
- ワークをやる。
- 過去問・問題集をやる。
- 過去の学力テスト・単元テストをやり直す。 など

5. テストに向けて

中学校では、学習した内容がどのくらい身についたかを確認するために、教科ごとに行われる「単元テスト」や全校一斉に行われる「定期テスト」、少し範囲が広くなり、進路指導の資料にもなる「学力テスト」があります。「単元テスト」や「定期テスト」は成績に大きく関わります。また、「定期テスト」は勉強時間を確保するために3日前に部活動が中止となります。

テスト勉強はいつから始めるの？

「定期テスト」については、2週間前にテスト範囲が確定します。2週間前から、ぜひ学習計画を立てて取り組みましょう。日常の家庭学習時間にプラスした学習時間が必要です。

「学力テスト」については、4月に1年分の範囲が浸されます。テスト範囲が長いので、少し余裕をもった計画が必要です。

わからないところはどうすればよい？

自分のわからないところが、はっきり自覚できるということは、かなり真剣に勉強に取り組み、理解が進んでいるということです。本当にわからない人は、「わからないところがわからない」のです。

計画的に、段階を踏んだ勉強をしていけば、必ず「理解できているところ」「わからないところがはっきりわかるようになってきます。しかし、無計画に、行き当たりばったりの勉強をしていては、こうなるのは難しいでしょう。

わからないところがわかったら、
友達や先生方に質問しやすくなります。
先生方もポイントをしばって教えることができます。
効率のよい勉強ができるようになります！

6. 各教科の先生方からアドバイス

国語

教科の特色・つけてほしい力

正しく『読む』正しく『聞く』正しく『話す』正しく『書く』そして、次に【豊かに】へとつながっていきます。コミュニケーションの中心で使うものだから、まずは、正しくつまり正確であることが目標になっていくといいでしょう。

これから一生にわたって「日本語に親しみ、美しい日本語を伝え、母国語にプライドをもって」いけることを願います。

Q1: 授業があった日の復習はどうすればよい？

基本は音読。正しく読めるかは、声を出すことで確認できます。意外にひらがなを間違えて読んでいるものです。次に、教科書にあわせて「問題練習」ワークから始めましょう。整理しきれなかったノートを整理しておきましょう。文法や漢字は「繰り返し練習」が1番。早いうちから覚えさせをつけておくと、次の新しいことを覚えるのに時間がかからなくなります。

Q2: 定期テスト2週間前の勉強の仕方はどうすればよい？

教科書にあわせて練習問題・漢字練習などを計画的に進めること。もちろんワークやノートの見直し、プリント類の書き直し。そのためには、日頃から整理することが大切です。

Q3: 学力テストに向けた勉強の仕方をどうすればよい？

教科書の復習の間に、教科書とは違う「長文問題」を解くこと。そのためには問題集が必要。漢字は範囲が決まっているので、定期テストのときに覚えたいものを復習することです。

Q4: その他、何かアドバイスがあれば・・・

よく読書が国語の力をつけるために、と聞くかもしれませんが、それは「本」により。中学3年生ではもう時間的に厳しいでしょう。今からいろいろな興味で新聞を読むことを勧めます。

<h1>社会</h1>	教科の特色・つけてほしい力 地理ではさまざまな文化や価値観、制度やしくみを知り、歴史では過去の出来事を知り、公民では現代の政治・経済・国際社会のしくみを知る。その上で、これからの未来がどうあるべきかを考えていくのが社会科です。 ただ、そのためにはたくさんの知識を覚える必要があります。暗記は基本です。覚えたことを生かして考える力を養うのが重要です。
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ 地理・歴史・公民とも共通しているのは、毎回授業で「ノートをとっている」ことです。ノートはその日の授業を受けた証拠になります。そのノートを用いていかに丁寧に復習してみよう。そうすると、「その日の授業がどんな内容だったのか？」や「先生や友達とどんな話をしたのか？」といったことも思い出しながら復習が出来ます。そうやって繰り返すことが復習となるのです。

<h1>数学</h1>	教科の特色・つけてほしい力 数学は身近なところでたくさん利用されています。ものつくりから買物の値の計算など、これらの人生で必ず使うこととなります。数学は一見難しいと思われがちですが、他の教科とは違い、覚えた公式などを使ってその場その場の問題を解いていく教科です。さほど多くない公式を覚えてしまえば、あとは問題の「パターン」や傾向をつかんで練習していくだけで済みます。考え方を理解すれば、類似した問題に対応できます。 つけてほしい力は習ったことを用いて、自ら考え、答えまで辿り着くプロセスを理解する力です。そのプロセス（解き方）は一通りではなく、いろいろなプロセス（解き方）があります。だから数学は楽しいと思えるのです。
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ 授業で習ったところをもう一度確認・理解し、ワークや教科書の問題で練習しましょう。学校では、様々な教科を少ない時間でたくさんやります。家庭では、時間をかけながら思い出すということが重要です。 ※授業の範囲を教科書やワークで復習する。 ※間違えた問題は必ずチェックしておく。そして、わからなかったところはすぐに解決する。（翌日に友達や先生に聞くなど）

<h1>音楽</h1>	教科の特色・つけてほしい力 ♪音楽は表現・鑑賞・創作が主な活動内容となるので、まず、音楽に対する興味・関心が求められる。 ♪基礎的な能力としては、音楽を感じ取るために必要な楽譜や音符に慣れること。例えば、歌謡、リズム表現で音符や休符の長さを読み取る力。そして表現する力が求められる。 ♪音楽は多様なため、幅広い知識(鑑賞)に触れることで表現力が豊かになっていく。そのため、音楽の文化・歴史に親しむことも重要である。
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ ♪表現活動は、家で難しい場面もあるが、例えば歌の歌詞を忘れないようにする等は工夫次第で可能。 ♪音楽記号は授業の板書を表にまとめることで自分で再度確認できる。ワークでの復習も有効。 ♪鑑賞は「楽曲について」「作者について」を解説やプリント資料をさらに自分なりにノートにまとめることで、覚えられる。 ♪自分で問題形式にまとめてみるのも有効。テスト対策にもなる。

<h1>保健 体育</h1>	教科の特色・つけてほしい力 ① 遅にわたって運動に親しむ資質や能力。一大人になり、高齢者になったときにも、身近に運動やスポーツができるようになる。 ② 健康の保持推進のための実践力。一高齢者社会になっている現代において、健康であり続けるために必要な考えや行動力を身につける。 ③ 各種目の運動技能を通して、スムーズな身のこなし・筋力・柔軟性・巧み性・体力等を身につける。 ④ スポーツに関わること(行う・みる・ささえる)
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ ○取り組んだことを頭の中で振り返り、次に生かせることを考える。 ○復習というよりは、毎日体を動かすことを実践してほしいです。朝のランニング・ウォーキング(犬の散歩など)でよいや冬に友達とグラウンドに行きスキーをするなど。

<h1>理科</h1>	教科の特色・つけてほしい力 理科は、実験や観察を通して、自然現象やものごとについて理解し、実験で得るデータやグラフを整理して考察する力をつけることが求められています。したがって、重要語句を覚えることはもちろん、実験での注意点と、その意味や、実験データをもとにして計算したり、グラフなどの規則性を用いて問題を解決する力を身につけること、理科がさらに面白くなり、テストの問題にも不安なく対応できるようにする必要があります。
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ ① ノートプリントの内容を、自分の家庭学習ノートに自分なりにまとめるが、図や絵などを入れながらまとめる、授業内自分が覚えやすくなります。 ② 教科書でくわついている「マイノート」を見て、授業で習った問題を復習してみよう。 ③ 自分で問題集やワークなどを用意して取り組んでもいいと思いますが、やりっぱなしで終わるより、しっかりと復習して終わるまで何度も解いたり、先生に解き方を質問するなどするといいでしょう。

<h1>英語</h1>	教科の特色・つけてほしい力 ○英語を勉強すると ・世界で広く使われている言語を学ぶことで、国際社会に対応するために必要な力がつく ・積極的なコミュニケーションを図る力が身につく ・日本企業や海外の産産品やサービス、日本の文化を海外で発信することができる。 ・進んだ国の違った文化や人々の生活習慣を知り、お互いの文化を尊重し合う気持ちが高めることができる。 ・音楽や映画など、身近なところで英語が使われていることに気づき、生活する上での視野が広がる。 ○英語科には「話す力」「聞く力」「読む力」「書く力」の4つの力があがる。「聞くことができる」「話すことができる」「読むことができる」「書くことができる」と、つながっている。4つの力はバランスよく習得しよう。
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ ○授業で使ったプリントやノート、ワークを整理し、授業を振り返る！ ○その日の学習した単語、文法などを繰り返し練習(書く・音読)して覚える。授業は理解の場、家では定例の場！ ○復習は学習したものをもう一度！ ○復習で出てきた疑問は、必ず解決する！

<h1>美術</h1>	教科の特色・つけてほしい力 美術では、絵や彫刻作品などを創ったり、美術作品を鑑賞したりします。その中で、ものを創り出す楽しさや味わったり、美術を愛好する気持ちや育つことを目指します。また、身のまわりから良さや美しさを感じる力や美術の基礎的な力、美術文化についての理解を身につけて、美的なものに感動できる心が身につけられます。
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ 主題を決めたり表現技法を試したりするのは、時間があればあるほど良いです。授業と授業の間隔があくときもあるので、その間を利用して自分のアイデアをまとめておきましょう。

<h1>技術</h1>	教科の特色・つけてほしい力 豊かな発想、確かな技術、やりぬく根気
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ 工具の名称や使い、加工技術、コンピュータソフトの使い方など、授業で習ったことをワークやノートで確認してみてください。

<h1>家庭</h1>	教科の特色・つけてほしい力 自分の生活を振り返り、見直し、行動していく力
	Q1:授業があった日の復習はどうすればよいか？ 先輩の言葉より。友達に勉強方法を聞かれ、こう答えました。 「授業があった日にもう一度教科書を読んで、「こういうことを今日はやったなあ」と復習しているの」